

第 2 回ブロック会議を開催

<地方協議会活動の活性化に向けて>

2018 年 5 月 25 日 (金)～26 日 (土) の 2 日間、大阪梅田のホテルサンルート梅田「恵風の間」において 2017 年度・第 2 回ブロック会議が開催された。今回のブロック会議は、全国の 4 ブロックすべての地方協議会の議長および事務局長が中心に集合し、各地方協議会における現状報告や各種の課題ならびに対応策などを議論した。

ブロック会議は年間 2 回開催しており、1 回は春季生活闘争時に本部の闘争方針の理解と深掘り、そして 5 月もしくは 6 月にはそれぞれのブロックで重要度の高い課題をテーマに議論の場を設けてきた。昨年は初めての試みとして、春季生活闘争時の他に全国 4 つのブロックを東西に分け大枠での開催を試みた。これらは、各地方協議会における人数規模や構成組織の特徴など、類似している地方協議会相互の組織運営の在り方や課題などの共有化が図れるよう実施したものであり、結果として有効的なブロック会議であったものと捉えている。今年度は更に枠を広げて全国 11 地方協議会の代表が集合し、それぞれの地方協議会の組織運営の状況や抱えている課題などを共有化し、更なる活性化に向けた意見交換の場が必要との判断の基で開催してきたものである。

第 2 回ブロック会議の内容は、組織運営の基本となる「年間活動計画に対する進捗状況」、それぞれが抱えている「各地方協議会における課題」、そして「本部との連携」などを各地方協議会からの報告を受け、類似している地方協議会を 4 つの分科会に分け「地方協議会活動を活性化するために」の議論を進めた。そして、それぞれの分科会で議論した内容を「まとめと報告」として行った。報告の中で共通している課題は「人材育成」「女性活躍」「コミュニケーション活動」などであった。それぞれの課題について明確な答えはないが、ヒントとして地方協議会活動の基は構成組織（単組）の活動であり、それぞれの中で「人材育成」「女性活躍」「コミュニケーション活動」を進める事が重要であると感じる。また、それらを実現するキーワードは「フェイス to フェイス」が基本であり、会って話をする事が解決の糸口になると思う。近年では便利な世の中になり、通信技術や各種ソフトの進化により顔を合わせなくても連絡は済んでしまうが、あくまでも連絡であり、意思の疎通は出来ていない現状にあると感じる。労働組合の基本は「フェイス to フェイス」であることを再認識し「人材育成」「女性活躍」「コミュニケーション活動」を推進し、活性化された地方協議会活動となるよう期待したい。

最後に、今回の全地方協議会が集合したブロック会議を再度検証し、次年度以降のあり方について議論を深めていきたい。



印刷情報メディア産業労働組合連合会
中央執行委員長 田倉 正司

第 2 回 ブ ロ ッ ク 会 議

第2回ブロック会議を振り返って

全地方協議会が結集したブロック会議は印刷労連初の試みであり、各地方協議会が立てた年間活動計画の進捗状況の確認と、活動の現有課題について情報共有を図りました。それぞれの協議会によって幹事会の進め方や活動内容も様々な特徴があり、各地方協議会のアイデアを共有し、今後の地協活動につながる意見交換の場となりました。また、別の課題として青年委員会の活動や育成をどのようにしていくか、更には女性参画についても議題となりました。地域性によっても異なりますが、印刷産業においては女性比率が少ない現状の中で、どのように女性役員を増やすか、組合活動への参画へつなげるかが共通課題であり、まずは活動に参加してもらうことが大切であることをあらためて認識しました。出された意見の中には、青年層の活動から参加を呼びかける、幹事登録でなくてもオブ参加で募るなど、各地方協議会の工夫や方法を共有する機会となりました。

2日目には11ある地方協議会を4つのグループに分け、更に深掘りした議論をするべく分科会を開催しました。分科会と同じ環境下にある地方協議会にグループ分けされ、共通課題についての意見交換が十分にできたことで、地方協議会の活動の役割を再認識することができました。各構成組織の活動を活性化させ、そして地方協議会活動を更に盛り上げるため、課題や取り組みについて活発な意見交換を行い、2018年度の新たな活動につながる実りあるブロック会議となりました。

組織の規模によっても活動の幅には違いがありますが、工夫をして活動していくことが大切です。また、地方協議会の活動は新しい情報や新しい制度を知る機会であり、構成組織の活動に活かせる場でもあります。

私たちの活動はFace to Face!! 顔と顔を合わせて意見を交わすことが重要です。情報を共有化できることが差別=印刷労連のメリットであることを参加者一同改めて実感した有意義な会議となりました。

今後も本部と地方協議会が常に連携をとって活動して参ります!

Face to Face!! 共にがんばっていきましょう!

顔と顔を合わせて、
Face to Face!



印刷情報メディア産業労働組合連合会
(報告者) 副中央書記長 古賀 初代



ブロック会議に参加された本部三役及び各地方協議会メンバーのみなさん

開会の挨拶～主催者代表挨拶



穴戸中央書記長（開会挨拶）



田倉中央執行委員長（主催者代表挨拶）



全国より 32 名が出席した

全体会議（11 地方協議会の 2 役より報告がされた）



北海道地協



宮城地協



関東北部地協



関東南部地協



長野地協



石川地協



愛知地協



京滋地協



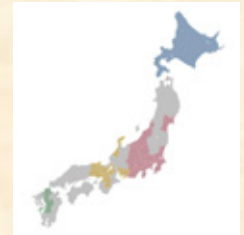
大阪地協



福岡地協



熊本地協



分科会（4チームに分かれ、より深い意見交換がされた）



分科会のまとめ報告及び閉会挨拶



巨理議長（宮城）



藤井議長（石川）



川端議長（京滋）



石山議長（大阪）



佐藤副委員長（本部）閉会挨拶

【全体会議～分科会テーマ】

- ・地方協議会の年間活動計画の進捗状況について
- ・各地方協議会活動の現有課題について
- ・本部との連携について

2017年度 本部青年委員会研修会 「熊本被災地視察」レポート

1. 「震災を風化させない」

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から3月11日で7年、熊本県を中心とする九州地震から4月で2年が経過した。いまだに仮設住宅で暮らさざるを得ない方々、避難生活を余儀なくされる方々、心の苦しみに振り出しをしない方々が数多くいることを忘れてはならない。連合においては、震災を風化させず、防災・減災に向けた様々な取り組みを継続しており、この取り組みは「助け合い・支え合い」という労働運動の原点であることは言うまでもない。印刷労連本部としても2017年12月9日に開催した「地方協議会青年委員会代表者会議」において2017年度の本部研修について意見交換し今年度も「震災を風化させない～被災地の復興状況の視察と今後の課題～」をテーマに、熊本県を中心とする九州地震の被災地視察を実施し、今後の地方協議会の青年委員会活動に繋がる研修として取り組んだ。



6月2日(土)は、熊本のシンボルである熊本城から地域の食文化や歴史・伝統を発信し、お城と城下町の魅力を高めたいというコンセプトのもと誕生した施設「城彩苑」内にある「湧々座」にて、熊本城の歴史VRやライブカメラ、プロジェクションマッピングによる震災状況・復旧状況を見学、震災時の石垣や瓦の崩落、櫓の倒壊など被害の甚大さを目の当たりにした。また、熊本城内は立ち入り規制区域のため、外周を回り、ボランティアガイドの語り部とともに現在の状況を視察した。熊本県民にとって熊本城の再生が復興のシンボルになる、という想いに感銘を受けた参加者も多い事だろう。

6月3日(日)は、地震の被害が甚大であった益城町に入り、ボランティアガイドの語り部とともに現在の状況を視察した。益城町は4月14日の前震でM6.5震度7、16日の本震でM7.3震度7の二度の被害を受け、町内の家屋の殆どが築30年以上で耐震構造以前の建物だったため倒壊が相次いだ。2年が経過し、倒壊した家屋は公費解体が進みライフライン等もほぼ復旧し新たな家屋の工事も進められており、解体後の空き地は点在するほどしかなく、町内を見渡しても震災の爪痕が判らなくなっていると感じる。一方、田畑が広がる農業区域ではあらゆる地表に断層の横ずれがあり、一部民家では庭をVの字に横切る断層があり地震のメカニズムの複雑さを実感した。



特に有名となった布田川断層は長さ180mを見通すことができ、幅は最大2.4mの横ずれを目の当たりにした。最後にテクノ仮設団地には500戸の居住世帯が現在もある事を知った。「熊本地震の規模や痕跡を後世に語り継ぐ事が私たちの役目だ」とのボランティアガイドの言葉が深く胸に残った。

2. 「次に備える」

今回の熊本被災地視察を終え、これまでの大震災では、阪神淡路は大規模な火災被害、東日本は津波被害と原発事故、そして熊本は地表地震断層による被害といったように、それぞれ被災の状況が異なる特徴があるという事を理解しなければならなかったと感じた。次の地震がいつ、どこで起きるか分からない。自分が暮らす地域の危険性を認識し、これまでの経験を活かし、しっかりと備えることが減災への第一歩である事もみんなで共有した。参加された青年代表には、各地方協議会に持ち帰りフィードバックして頂きたい。



加藤神社より修復中の熊本城天守閣を望む



二の丸広場にて

◆参加された青年代表者(組織名略称)

- 【北海道】杉浦真人さん(フォームズ) 林真吾さん(凸版) 【宮城】高橋健太さん(凸版) 齋藤貴彦さん(野崎) 【関東北部】小林栄一さん(共同) 力久範教さん(凸版)
- 【関東南部】菅野清太郎さん(凸版) 鈴木貴博さん(新日本) 【石川】森優生さん(高桑) 川端翼さん(高桑) 【愛知】毛利裕昭さん(竹田) 齋藤渉さん(フォームズ)
- 【京滋】齋藤勝さん(野崎) 中野拓海さん(大平) 【大阪】大西良輔さん(古林) 小谷美瑚さん(ココヨ) 【福岡】北川達也さん(凸版) 渡邊啓喜さん(凸版)
- 【熊本】望月駿也さん(凸版) 北野賢人さん(フォームズ)

※熊本地方協議会より、取本議長・北川幹事に同行いただきました。



関東南部地方協議会青年委員長の菅野清太郎さん(右)より、メーデー模擬店出店時の売上金206,400円を連合熊本への義援金として熊本地方協議会取本議長へお預けしました。



2018年6月13日、印刷労連熊本地方協議会取本議長より、連合熊本・佐々木事務局長へ義援金をお渡ししました。佐々木事務局長からは感謝の意と、今後も震災を風化させないためにも復興支援の活動を続けて欲しいとのことをお話しを頂きました。



<研修会報告者>
中央書記長
宍戸良太

連合  印刷労連
労働相談ダイヤル
03-5442-0191



左記QRコードから、是非、印刷労連のHPもご覧ください。
ID: pimw (半角英数)
PASS: 1989 (半角英数)